Fukuoka City Public Library Movie Hall

# Ciné-là 11

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

November.2011 vol.178

fiaf
国際フィルム・アーカイヴ連盟=FIAFは
映画の保存を目的とする国際団体です。
福岡市総合図書館はFIAFの会員です。

カルメン故郷に帰る

## 昨年12月に亡くなった日本映画史に残る大女優・高峰秀子の特集。

特別企画

# 映画女優・高峰秀子

この天の虹 ©1958松竹

## 北九州の八幡製鉄所を舞台にした「この天の虹」を中心に、国鉄、炭鉱など当時の労働者や社会状況を描いた作品を上映。

特別企画

福岡市文学館企画展
「サークル誌の時代—労働者の文学運動 1950〜60年代 福岡」協賛

# 映画「この天の虹」上映

特別企画

昨年12月に亡くなった日本映画史に残る大女優・高峰秀子の特集。

# 映画女優・高峰秀子

共催：東京国立近代美術館フィルムセンター

**会期：11月2日(水)～11月24日(木)** ※休館日・休映日除く

**観覧料：600円(大人)/500円(大学生・高校生)/400円(中学生・小学生)**

※定員制。各回入替制。
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※障がい者の方及び福岡市在住の65歳以上の方は300円。(手帳の呈示が必要です。)
※「わの会」会員は300円(会員証の呈示が必要です。)

東京国立近代美術館フィルムセンター National Film Center The National Museum of Modern Art, Tokyo

## 2(水) 14:00 | 18(金) 11:00 | 23(水・祝) 14:00

### 浮雲

昭和18年、幸田ゆき子は仏印で農林省の技師の富岡と出会い愛し合う。妻と別れると言った富岡だが、戦後となり富岡は約束を果たさなかった。しかしそれでも二人は別れることができず、関係は続いていくのだった。別れたくても別れられない男女関係を冷徹に描いた成瀬巳喜男監督の代表作であり、日本映画最高の名作の一本と評価される作品。ラストの高峰秀子の美しさは日本映画史上屈指のシーンである。

©東宝

1955年／35ミリ／モノクロ／123分／東宝　監督：成瀬巳喜男　出演：森雅之　高峰秀子

## 3(木・祝) 11:00 | 9(水) 14:00 | 12(土) 14:00

### 女の園

京都の正倫女子大は全寮制で、良妻賢母の教育をモットーとして学生を厳しく管理していた。厳しすぎる寮母の五条に対して学生達は反発の声を上げるのだが、学校側の切り崩しのため、気が弱い芳江はみんなの反感を買ってしまう。岸恵子、久我美子など豪華キャストによる社会派女性映画。この後の学生運動を先取りしたような作品。

©1954松竹

1954年／35ミリ／モノクロ／137分／松竹
監督：木下恵介　出演：高峰三枝子　高峰秀子

## 3(木・祝) 14:30 | 10(木) 14:00 | 18(金) 14:00

### 二十四の瞳

昭和三年。大石久子は瀬戸内海・小豆島の分校の先生として赴任する。1年生12人が久子の担任だった。ある日子供達のいたずらで久子は骨折してしまう。家で休んでいる先生を、子供達は遠い道のりを歩いてお見舞いにやってくる。5年生となり、分校の生徒は本校で大石先生と再会する。離島に赴任した教師と子供達の20年以上にわたる交流を描いた作品で、日本映画を代表する名作の一本。高峰秀子が20代から50代までの主人公を熱演する。

©1954松竹

1954年／35ミリ／モノクロ／155分／松竹
監督：木下恵介　出演：高峰秀子　月丘夢路

## 4(金) 11:00 | 12(土) 11:00

### カルメン故郷に帰る

東京でストリッパーとして成功したカルメンは、友人のマヤ朱実をつれて故郷である浅間山麓の村に帰ってきた。自分を芸術家だと思っているカルメンだが、二人の派手な行動は村で大騒ぎとなり、とうとう父親は寝込んでしまう。日本初のオールカラー劇映画として製作された画期的な作品。内容は木下監督のオリジナルのアイデアであり、高峰秀子が少し頭の悪いカルメンをコミカルに演じており、一種の風刺喜劇となっている。

1951年／35ミリ／カラー／86分／松竹
監督：木下恵介　出演：高峰秀子　小林トシ子

## 4(金) 14:00 | 6(日) 11:00 | 12(土) 17:00

### カルメン純情す

浅草のストリッパー、カルメンの元に親友の朱実が赤ん坊をつれてやって来る。朱実は男に棄てられたのだ。二人は赤ん坊を棄てようとするが、そこはパリ帰りの芸術家須藤の家の前だった。この事で須藤と知り合ったカルメンは彼に夢中になってしまう。長期のヨーロッパ滞在から帰国した木下監督の帰国後最初の作品。日本人の「民主主義」や「芸術」に対する浅はかさがカルメンを通じて痛烈に皮肉られている。

©1952松竹

1952年／35ミリ／モノクロ／103分／松竹
監督：木下恵介　出演：高峰秀子　若原雅夫

## 5(土) 11:00 | 16(水) 14:00 | 20(日) 11:00

### 雁

善吉とお玉の父娘は飴細工を売って慎ましく暮らしていた。お玉は呉服屋の末造の世話になることになる。ところが、末造は実は高利貸しであり、お玉を妾にしたのだった。大学近くの家に一人暮らすお玉は、毎日家の前を通る大学生・岡田を知り、いつしか思慕の情を募らせる。森鴎外の同名小説の映画化であり、原作に劣らぬ高い評価を受けた。

©1953角川映画

1953年／16ミリ／モノクロ／104分／大映
監督：豊田四郎　出演：高峰秀子　芥川比呂志

## 5(土) 14:00 | 10(木) 11:00 | 13(日) 14:00

### 笛吹川

戦国時代。武田信玄が治める甲斐の国、笛吹川のたもとに定平の一家は暮らしていた。定平はおけいを嫁にもらう。二人の間には三人の男と一人の女の子が生まれる。長男の惣蔵は成長すると戦に出て武士になろうとする。そして両親の反対を振り切り、次男の安蔵も一緒に連れていく。戦を農民の視点から描いた映画で、木下監督の中では異色の作品。モロクロの画面がカラーで彩色されたような映像が斬新。

©1960松竹

1960年／35ミリ／カラー／117分／松竹
監督：木下恵介　出演：田村高廣　高峰秀子

## 5(土) 17:00 | 11(金) 11:00 | 24(木) 11:00

### 稲妻

バスガイドをしている清子の3人の兄姉は、すべて父親が違っていた。長女の縫子は清子に縁談を持ってくるのだが、金儲けに利用する魂胆が見え透いていた。そんな時次女光子の夫が急死し、愛人が赤ん坊をつれて養育費を請求してくる。戦後の様相が見事に描かれた作品だが、濃厚な人間ドラマが展開する。戦後という時代に翻弄される家族を描いた成瀬監督の名作。

©1952角川映画

1952年／35ミリ／モノクロ／87分／大映
監督：成瀬巳喜男　出演：高峰秀子　三浦光子

**6(日)14:00 | 11(金)14:00**

## 喜びも悲しみも幾歳月

昭和7年。灯台守の有沢四郎はきよ子と結婚し、観音崎灯台に赴任する。以後、北海道の石狩灯台、長崎・五島列島の女島灯台、佐渡の弾崎灯台などを転々としていく。二人には長女と長男が生まれ、過酷な仕事を夫婦で支え合いながら仕事をこなしていくのだった。約25年に渡る灯台守の夫婦の物語を、佐田啓二と高峰秀子が見事に演じる感動作。背景に昭和の様々な出来事が描かれる。

©1957松竹

1957年／35ミリ／カラー／159分／松竹
監督：木下恵介　出演：佐田啓二　高峰秀子

**16(水)11:00 | 19(土)14:00 | 22(火)14:00**

おすすめ！わの会

## 名もなく貧しく美しく

©東宝

竜光寺真悦の妻・秋子は耳が聞こえなかった。ところが真悦が発疹チフスで死ぬと、秋子は離縁されてしまう。実家に帰る秋子。母親のたまは喜ぶのだが姉弟達は生活が苦しくなると嫌がるのだった。ある日ろう学校の同窓会に出席した秋子は、片山道夫と出会う。二人は交際を始め秋子は結婚を申し込まれる。二人は結婚しやがて子供が生まれるが、耳が聞こえないことから事故で死なせてしまう。二人は靴磨きを始め、母親のたまが同居する。そして二人には一郎が生まれる。一郎は障害もなく健康に育つのだが、次第に両親を嫌がるようになる。

監督の松山善三は木下恵介監督の下で助監督を務め、脚本家として活躍した。本作は監督が有楽町で目撃した聾唖者の靴磨きの夫婦を題材に脚本化した感動作である。当初は木下恵介が監督する予定であったが、意見の相違から松山善三の初監督作品となった。高峰秀子と松山善三は「二十四の瞳」撮影中から交際を始め、55年木下監督等の仲人により結婚している。本作は夫婦が監督・主演女優として参加した初の作品となる。手話を字幕で表現するなどの工夫がこらされており、高峰秀子の演技は高く評価されたが、本作の高峰秀子の美しさは夫から妻への愛情表現のようにも思えるのである。

1961年／35ミリ／モノクロ／130分／東京映画　監督：松山善三　出演：高峰秀子　小林桂樹

**9(水)11:00 | 13(日)11:00 | 19(土)11:00**

## 秀子の応援団長

プロ野球のアトラス軍は最下位に転落していた。アトラス軍監督・高島のいとこの秀子は活発な女学生だった。秀子は友人達とアトラスの応援歌を作って応援する。するとアトラスは勝ち続けるのだった。人気スターの高峰秀子と歌手・灰田勝彦を主人公としたアイドル映画。随所に歌が挿入され、戦時中の製作とは思えない明るい雰囲気の作品。スタルヒンなどが登場するのも見物。東京国立近代美術館フィルムセンター収蔵作品

©東宝

1940年／35ミリ／モノクロ／71分／南旺映画
監督：千葉泰樹　出演：高峰秀子　灰田勝彦

**17(木)11:00 | 20(日)14:00 | 24(木)14:00**

## 宗方姉妹

宗方忠観は胃ガンであり、京都で静かに暮らしていた。彼の娘・節子の夫は失業中で、節子が銀座のバーを経営して家庭を支えていた。節子の妹で独身の満里子もバーを手伝っていたが、満里子はだめな夫に尽くす節子が我慢できなかった。古風な姉を田中絹代が、現代的な妹を高峰秀子が演じており、二人の対比が見事な作品。小津監督が松竹以外の会社で初めて監督した作品でもある。

©東宝

1950年／35ミリ／モノクロ／112分／新東宝
監督：小津安二郎　出演：田中絹代　高峰秀子

**17(木)14:00 | 19(土)17:00 | 23(水・祝)11:00**

## 綴方教室

東京のはずれに住む6年生の正子は、ブリキ職人の父、母親、弟の4人家族だった。正子は作文が上手く、天分を認めた先生は熱心に指導した。ところが、正子が書いた作文が雑誌に掲載され、それが原因で父親の仕事の頭梁をおこらせてしまう。小学生、豊田正子の作文を集めた「綴方教室」を元にした作品。当時天才子役といわれた高峰秀子の演技が光る。

©東宝

1938年／35ミリ／モノクロ／86分／東宝
監督：山本嘉次郎　出演：高峰秀子　徳川夢声

### 特別企画

福岡市文学館企画展「サークル誌の時代―労働者の文学運動 1950～60年代 福岡」協賛

**北九州の八幡製鉄所を舞台にした「この天の虹」を中心に、国鉄、炭鉱など当時の労働者や社会状況を描いた作品を上映。**

# 映画「この天の虹」上映

**会期：11月25日(金)・26日(土)**
**観覧料：600円(大人)/500円(大学生・高校生)**
**400円(中学生・小学生)**

※定員制。各回入替制。
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※障がい者の方及び福岡市在住の65歳以上の方は300円。（手帳の呈示が必要です。）
※「わの会」会員は300円（会員証の呈示が必要です。）

**25(金)11:00 | 26(土)14:00 | 26(土)17:00**

## この天の虹

東洋最大の八幡製鉄所。若い作業員・須田は溶鉱炉の組長・景山のアパートに下宿していた。須田が兄と慕う相良は、秘書課の千恵に惹かれ、景山を介して交渉をしてもらう。しかし千恵の家族は反対し、千恵にも町村という恋人がいた。「この天の虹」とは製鉄所の煙突から出る七色の煙をさす。今では公害の象徴だが、当時は高度成長、輝かしい未来の象徴であったことが分かる。会社がひとつの大家族のようだった時代に、そこで働く人々を描いた秀作。

©1958松竹

1958年／35ミリ／モノクロ／106分／松竹
監督：木下恵介　出演：高橋貞二　久我美子

**25(金)14:00 | 26(土)11:00**

## ある機関助士

1963年／16ミリ／カラー／ドキュメンタリー
37分／岩波映画　監督：土本典昭

## はじけ鳳仙花―わが筑豊 わが朝鮮―

1984年／16ミリ／カラー／ドキュメンタリー／48分／幻燈社　監督：土本典昭

「ある機関助士」は、上野から水戸まで蒸気機関車を運転する機関助士の仕事を記録した作品。62年に三河島で鉄道事故が起きた。国鉄は鉄道の安全性をPRする目的で本作を製作したが、映画は逆にダイヤの過密さと労働の厳しさを描き出す結果となった。土本典昭の初監督作品。

「はじけ鳳仙花」は画家の富山妙子の原案によるもので、彼女が制作する作品を中心に描いたドキュメンタリー。日本に連れてこられた朝鮮人炭鉱夫を描いたリトグラフの制作風景。彼女の作品を使って、名もなき朝鮮人炭鉱夫の物語を語る「身世打鈴」などが挿入される。彼女の創作世界を映画は様々な観点から表現する。

2011年福岡市文学館企画展

## サークル誌の時代
## ―労働者の文学運動1950～60年代福岡

**11月3日(木・祝)～12月11日(日) 入場無料**

1950-60年代福岡で、労働者たちが創造したサークル誌について紹介し、文学運動について考えます。

**第一会場** 福岡市総合図書館1Fギャラリー
（福岡市早良区百道浜3-7-1）

収集したサークル誌を一堂に集め、展示解説します。
開館時間／10:00～19:00（日・祝は18:00まで）
月曜、11月30日(水)　休館

**第二会場** 福岡市文学館（福岡市赤煉瓦文化館1F）
（福岡市中央区天神1-15-30）

サークル誌の中に表現された、労働者たちの「言葉」に注目します。
開館時間／9:00～21:00　月曜休館

※お問い合わせ
福岡市総合図書館文学・文書課　tel. 092-852-0606

# 11月 上映スケジュール

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 1・火 | 休館日 | | |
| 映画女優・高峰秀子 | 2・水 | | 14:00 浮雲 | |
| | 3・木/祝 | 11:00 女の園 | 14:30 二十四の瞳 | |
| | 4・金 | 11:00 カルメン故郷に帰る | 14:00 カルメン純情す | |
| | 5・土 | 11:00 雁 | 14:00 笛吹川 | 17:00 稲妻 |
| | 6・日 | 11:00 カルメン純情す | 14:00 喜びも悲しみも幾歳月 | |
| | 7・月 | 休館日 | | |
| | 8・火 | 休映日 | | |
| | 9・水 | 11:00 秀子の応援団長 | 14:00 女の園 | |
| | 10・木 | 11:00 笛吹川 | 14:00 二十四の瞳 | |
| | 11・金 | 11:00 稲妻 | 14:00 喜びも悲しみも幾歳月 | |
| | 12・土 | 11:00 カルメン故郷に帰る | 14:00 女の園 | 17:00 カルメン純情す |
| | 13・日 | 11:00 秀子の応援団長 | 14:00 笛吹川 | |
| | 14・月 | 休館日 | | |
| | 15・火 | 休映日 | | |
| | 16・水 | 11:00 名もなく貧しく美しく | 14:00 雁 | |
| | 17・木 | 11:00 宗方姉妹 | 14:00 綴方教室 | |
| | 18・金 | 11:00 浮雲 | 14:00 二十四の瞳 | |
| | 19・土 | 11:00 秀子の応援団長 | 14:00 名もなく貧しく美しく | 17:00 綴方教室 |
| | 20・日 | 11:00 雁 | 14:00 宗方姉妹 | |
| | 21・月 | 休館日 | | |
| | 22・火 | | 14:00 名もなく貧しく美しく | |
| | 23・水/祝 | 11:00 綴方教室 | 14:00 浮雲 | |
| | 24・木 | 11:00 稲妻 | 14:00 宗方姉妹 | |
| この天の虹 | 25・金 | 11:00 この天の虹 | 14:00 ある機関助士/はじけ鳳仙花 | |
| | 26・土 | 11:00 ある機関助士/はじけ鳳仙花 | 14:00 この天の虹 | 17:00 この天の虹 |
| | 27・日 | 自主上映／福岡映画サークル協議会第6回例会 | | |
| | 28・月 | 休館日 | | |
| | 29・火 | 休映日 | | |
| | 30・水 | 休館日 | | |

## 第311回プロムナードコンサート

◆◆◆月に一度のお昼休みのクラシックコンサート◆◆◆

日　時：2011年11月25日(金) 12:00～13:00　※入場無料
場　所：西日本シティ銀行本店1Fエントランスホール(福岡市博多区博多駅前3-1-1)
曲　目：ドヴィエンヌ作曲　ファゴット四重奏曲　他
演奏者：福岡ハイドン弦楽四重奏団
主　催：財団法人福岡文化財団　TEL.092-473-6777

©東宝

## 高峰秀子 略歴

1924年北海道函館市生まれ。4歳の時、父親の妹・志げの養女となり東京にやって来る。5歳の時、松竹蒲田撮影所を見学に行くが、この日は偶然「母」の子役のオーディションの日であり、審査員の野村芳亭監督により抜擢される。「母」(29年)はヒットし、一躍子役として認められる。芸名の高峰秀子は、養母が活弁士として活躍していた時の名前。「東京の合唱」(31年 小津安二郎監督)、「不如帰」(32年 五所平之助監督)など数多くの作品に出演する。

37年P.C.L.に移籍。この頃は子役から娘への転換の時期だが、「綴方教室」で素晴らしい演技を見せ、彼女の最初の代表作となった。「秀子の応援団長」などアイドルスターとして人気になる一方、女優としての自覚を持ち、「馬」(41年)など演技の面でも進展を見せていく。彼女の明るいキャラクターから「デコちゃん」の愛称でみんなにかわいがられ、戦時下でも明るい娯楽作品が多かった。

戦後、東宝争議に際して「十人の旗の会」を結成。その後新東宝で「銀座カンカン娘」(49年)、「宗方姉妹」などに主演する。50年フリーとなる。51年木下恵介監督の「カルメン故郷に帰る」に出演したことで、以後木下作品の重要な俳優となるだけでなく、木下監督の助監督だった松山善三と出会い結婚することとなる。

50年代日本映画の黄金期にあって彼女は、「煙突の見える場所」(53年 五所平之助監督)、「二十四の瞳」、「浮雲」などの名作に主演、日本のトップ女優として活躍する。その他「笛吹川」、「永遠の人」(61年)、「名もなく貧しく美しく」、「華岡青洲の妻」(67年)、「恍惚の人」(73年)など数多くの名作に出演する。「衝動殺人・息子よ」(79年)を最後に「女優廃業宣言」をして引退する。その他テレビの司会や、「わたしの渡世日記」で76年エッセイスト・クラブ賞を受賞するなど、多彩な面を見せて活躍した。2010年12月28日肺ガンにより死去。日本映画史を体現したような大女優であった。

## 自主上映のお知らせ

**11月27日(日)　福岡映画サークル協議会第6回例会**

上映作品：「孫文　100年先を見た男」①11:00～　②15:20～
　　石子順氏講演　13:30～14:30
料　　金：前売1,300円、当日1,500円
主　　催：福岡映画サークル協議会　tel.092-781-2817

※自主上映の詳細については直接主催者にお尋ね下さい。


information

**福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ**

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館(代表)：tel.092-852-0600
映像資料課：tel.092-852-0608 fax.092-852-0609

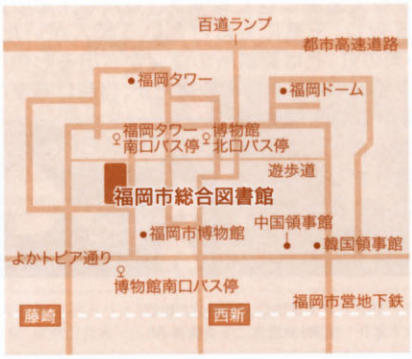
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ　ホームページ
うえぶシネラ http://www.cinela.com


Access

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

市営地下鉄
西新駅または藤崎駅下車徒歩15分

西鉄バス
●博多駅、天神、西新から福岡タワー南口下車徒歩5分または博物館南口下車徒歩5分
●藤崎から福岡タワー南口下車徒歩5分
◎所要時間は交通事情により異なります。バス運行時間、目的地までの所要時間の目安、またお近くのバス停からのご利用については西鉄お客様センター【tel.0570-00-1010】に直接お問い合せください。





Ciné-là 福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ 2011年11月号 vol.178
発行:映像ホール・シネラ実行委員会
印刷／大同印刷株式会社